スポーツマンシップ

「我々は、スポーツマンシップにのっとって……」。選手宣誓でおなじみのフレーズだ。では、「スポーツマンシップ」とは何かと聞かれ、即答できるスポーツ関係者はどれくらいいるだろう。

「スポーツマンシップ指導者育成会」という講座が開かれていると聞き、京都府向日市内の西の丘ローンテニスクラブを訪れた。スポーツの成り立ちや現代社会との関わりなどを硬い表情で聞いていた若いコーチらが、「なるほど」という顔をした瞬間があった。試合に負けたときの振る舞いについての話になった時だ。

「どんなに悔しくても相手の選手と握手するよね」。講師の同会理事長の広瀬一郎さんが尋ねると、コーチらは大きくうなずいた。あのミスさえなければと自分を責めたくなることもあるだろう。その気持ちを押しとどめ、自らの非を認めつつも相手をたたえて手を握る。その他者を尊重する態度こそが、スポーツマンシップなのだという。

国内外のスポーツ団体でさまざまな不祥事が相次いでいる。他人などお構いなしに自己の利益のみを追う姿勢はスポーツマンシップと対極にある。【辻中祐子】

2015.6.22